

「ドローンの試験飛行(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

子どもの頃、親戚の人にラジコンヘリコプターを買ってもらって、公園で遊んだのを覚えている。あまり性能が良くなく、離陸、前進、着陸(実際は「墜落」)ぐらいしかできなかった。しかも機体が脆弱で、2~3回の飛行で壊してしまったような気がする。

今度は、「ややまともな飛行体」を手に入れた。ドローンである。ドローンといっても「ファントム4」のようにGPSや自動着陸機能搭載で、二十万円もするような本格的なものではなく、基本「玩具」である。



これが今回届いたドローン。飛行体、リモコン、無線モニター、カメラという構成である。これにSDカード、バッテリーの予備、充電器などもつく。一万円ちょっとの割には、かなり充実したセット内容だ。



飛行体をひっくり返すと、中央にカメラとバッテリー、4本の腕にはプロペラと色違いのLEDが光って

いる。このLEDの色が重要で、青が前方、赤が後方を意味する。ドローンは形状が線対称且つ点对称なので、飛行中、前後の見分けがつかなくなるからだ。



リモコンも機能が満載である。スロットル(上下動)、左右動、機体の回転、宙返り、速度などが調整できる。モニターには、現在撮影している画像がリアルタイムで送られてくる。画像や動画は、リモコンからの指示で、飛行体本体のSDカードに記録される。リモコン下部の液晶モニターには、電池残量、速度、プロペラの状態などが表示される。これは、かなりキている。



まずは、部屋の中で試験飛行をしてみた。飛んだ! モニターにも、部屋の中の家具が映っている。一応成功。明日は屋外で試験飛行をしてみよう。